



第 38 号 (年 4 回発行) 編集発行 弘前学院大学 前報委員 印刷所 (有)小野印刷所

# 伸ばし過ぎずに

学長 吉岡 利忠



先日開催された卒業式における祝辞の一部を記載します。

総勢一八七名の諸君が弘前学院大学から卒業・修了して行きました。昨今は、社会情勢、経済情勢とも大変厳しいものがあり、就職に関しては私どもの大学のみならず、多くの大学で頭を悩ましてい

るところであります。大学で開催される3学部を対象にした就職セミナーも恒例の行事になりました。このセミナーには首都圏および北東北3県から多くの会社、企業、医療施設などが参加しております。その甲斐もあり現在の就職率は全体で80%と上昇しております。今後さらに内定率が増え、最終的には100%になるものと期待しております。特に、看護学部卒業生はほぼ全員の就職が決まっております。さて、諸君は、キリスト教主義教育を貫くわが弘前学院大学および大学院研究科を卒業・修了しまし

た。諸君は、入学時にリトリートという行事に参加し、建学の精神と聖書の心を学び、木曜日の通常礼拝のみならず創立記念礼拝、秋の特別礼拝、クリスマス礼拝、クリスマス音楽の夕べでは、宗教主任、牧師さん、教員そして諸先輩の貴重な話や心が和む音楽や歌唱を聴くことができました。静かな環境の中で、貴重な経験をしました。そして、いま、この卒業式に参加しております。これらの経験は、これから社会に出る諸君にとって自分が置かれていた状況や今後の進むべき方向を見定める時の態度を知らず知らずのうちに養ってくれていきます。たとえ短い時間の礼拝であっても、極めて有意義な体験であったと思っております。

さて、弘前学院は創立一二五周年に入ります。歴史と伝統のある大学に在学したことに、堂々たるプライドを持って欲しいと思います。弘前学院創設以来の歴史や伝統は、見え隠れしながら皆さんの誇りや自信を形成してくれています。崇高なプライド、誰にも負けない誇りと自信を抱き社会に飛び立つて下さい。そして、この伝統を持つ弘前学院大学に入学し卒業・修了したことを諸君が卒業した高校の先生方、後輩、兄弟、友人たちあるいは職場の先輩たちに大いに誇りとして下さい。弘前学院聖愛中学校・聖愛高等学校そして大学は、いわゆる中・高・大そして大学院までの一環教育の必要性を意識した結果で



学位記授与式

諸君はさまざまな環境に飛び込むことになり、色々な人々と巡り会います。年齢の異なる人たちが、学歴が異なる人たちが、地位が異なる人たちが、大学生時代では友達、部活の仲間というほほ横の繋がりが主であったものが、歴

さて、弘前学院は創立一二五周年に入ります。歴史と伝統のある大学に在学したことに、堂々たるプライドを持って欲しいと思います。弘前学院創設以来の歴史や伝統は、見え隠れしながら皆さんの誇りや自信を形成してくれています。崇高なプライド、誰にも負けない誇りと自信を抱き社会に飛び立つて下さい。そして、この伝統を持つ弘前学院大学に入学し卒業・修了したことを諸君が卒業した高校の先生方、後輩、兄弟、友人たちあるいは職場の先輩たちに大いに誇りとして下さい。弘前学院聖愛中学校・聖愛高等学校そして大学は、いわゆる中・高・大そして大学院までの一環教育の必要性を意識した結果で

すし、理事長ならびに全教職員の強い思いを背景に地域から望まれた結果だと信じております。聖愛中学校は大学の看護学部と同様に、この3月に第2回生を送り出しました。キリスト教主義を背景とし

然とした上下関係が存在する中に入ります。皆さんにとっては強烈な試練が待ち構えています。寝不足になったり、頭痛を訴えたり、たまにはお腹も痛くなるでしょう。どのような環境でも前向きに進むということ、この緊張を持つ姿勢が厳しい環境にも馴染むものです。社会に飛び立つと、周囲はストレスだらけ。正確に言いますと、ストレスとは私たちの体の中に生じる得体の知れないもので、ストレスを惹き起こせるものをストレッサーと言っております。ストレッサーが環境そのものなので、ここに輪ゴムがあるとします。図に示しているように、引っ張り過ぎの状態だとそのうちに劣化して切れてしまいますが、適度に張られている、すなわちある程度緊張しているゴムは弾性として機能が発揮されます。その状態では、少しくらい引っ張っても切れません。また、パンパンに張った風船を外から圧すと、すなわちストレッサーが加わると弾けてしまいます。あまり空気を入れている風船では、外からの圧力が

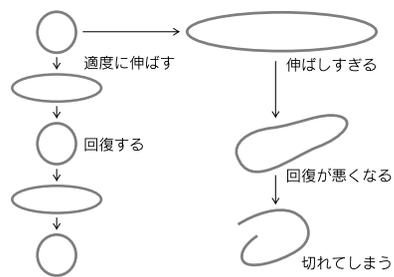


図 輪ゴムとストレス

あってもほんの少し凹むだけ。輪ゴムの例は、「心の引っ張り」であり、風船は「心の圧迫」であり、緊張が強くても緩めることがうまければ長持ちするし、何時も張り

様化は、避けて通れません。環境に馴染むことが求められています。環境に適応し・順応し・順化する。これは生命科学の分野の専門用語ですが、良い意味でその場に適應することが大切。なにが嫌、これが駄目などと言わず、どんなことにも挑戦する姿勢です。弘前学院大学で学んだ諸君には充分その姿勢が備わっています。

諸君は、弘前学院大学を卒業・修了したことに、自信と誇りを持ち、胸を張って諸君の志を達成するために歩み続けてください。そして、将来、諸君が素晴らしい伴侶を得て、行く行くは諸君のお子様たちが弘前学院聖愛中学校・高等学校そして母校となる弘前学院大学を目指していただき、弘前学院の歴史を作っていただきたいものです。そのような、諸君に愛される大学になるように私も教職員は一丸となって前進したいと思います。

以上、皆さんの前途を祝し、私の式辞といたします。諸君にそして全ての大学関係者に神の思召しを。God Bless You!

## 本多庸一とキリスト教 番外編二

学校法人弘前学院

理事長 阿保 邦弘



本多庸一とともに津軽に入ったキリスト教は、社会改革においても大きな働きをするようになった。特に、禁酒を主張してアメリカに起こった婦人運動である「キリスト教婦人矯風会」は宣教師によつて日本にもたらされ、明治十九年弘前教会にも結成された。その集会記録が「矯風会記録」である。

この度は、弘前学院のご協賛を頂き、「矯風会記録」を上梓することができ、まことに有難うございました。

この本は弘前教会所蔵の「矯風会記録」(全三冊)を、元聖愛高校教諭、柏崎節子さんと私の二人で解説編集したものです。私どもの動機には学院にあった二つの出来事がかかわっております。



矯風会記録

この本は弘前教会所蔵の「矯風会記録」(全三冊)を、元聖愛高校教諭、柏崎節子さんと私の二人で解説編集したものです。私どもの動機には学院にあった二つの出来事がかかわっております。

# 卒業研究発表会を終えて

看護学部 看護学科 四年 豊嶋 純恵



昨年の十二月十九日(土)、看護学部棟に於いて2009年度卒業研究発表会が二つの教室で行われました。学生達が発表会の準備・進行を行い、10のセッションに分かれて54課題が発表されました。私は「H病院におけるチーム医療のあり方について」というテーマで研究発表を行いました。三年生の後期にテーマの提出期限があり、最初はテーマを決めるのにも迷いました。これまでの実習で最も印象に残ったことを思い出し、それをテーマに出来ないだろうか?と考えました。私の受け持った患者さんは退院後に施設に入ることが決まっています。退院後の不安を私にいつも話しておりまして。私は話を聞くことしか出来

なかつたのですが、その病棟の看護師さんやソーシャルワーカーの方々が、退院後に入る予定の施設について説明したり、患者さんが少しでも自立できるように理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の方々が毎日ハビリティを行ったりなど、様々な職種の人たちが関わり患者さんをサポートしてました。その結果、患者さんは笑顔で退院していったのです。このことから、円滑なチーム医療を行うには、職種間でどの様な連携を行っているのか探求したいと思い、卒業研究のテーマにしました。

テーマ提出後、担当教員に指導していただき、研究計画書を作成しました。何度も書き直しをしました。卒業研究を進める中で、研究計画書の作成が一番大変でした。その後、自作のアンケートを作成しました。アンケートはH病院に勤務する看護師さん全員(約60人)を対象としたので、収集やデータ

の集計に時間がかかりました。しかし、臨床の生の声を聞くことが出来、アンケートの一つ一つが文献からは知ることの出来ないもので、とても参考になりました。

十二月に入って、論文と発表用のスライドの作成にかかりました。スライドは研究した内容をわかりやすく、的確に発表できるかを重点に考え作成しましたが、十分以内を終えることが難しく、何度も練習を重ねました。同じゼミの皆でわかりづらいところやスライドで見づらいところなどを指摘し合い、より良い発表になるよう協力しました。発表会では、自分がやってきたことに自信を持って話し、終わった後に大きな達成感

を感じました。また、他学生の発表を聞き、質問を出し合う中で多くを学びました。四年生では、実習や就職活動、国家試験の勉強や卒業論文とやるのがたくさんあり投げた時もありませんでしたが自分が興味をもったテーマだったので、最後までやり遂げることが出来たのだと思います。指導してくださった先生方や、支えてくれた友達、協力してくださったH病院のスタッフの皆さんには本当に感謝しています。これから私は看護師として医療チームの一員となつて働きます。他職種の方と関わり、患者さんの笑顔のために看護していきたいです。



74名が修了し、それぞれの地域で活動しておられます。

本学は、地域とともに歩む大学として、当初からこの構想に積極的に参加し、企画委員・運営委員の派遣のほか、講師・場所を提供するなど、できる限りの貢献を惜みず、今日に至っています。

2008年度から、弘前市において第4期のうちの1コースである「人文科学コース」が開設されましたが、このたび2年間のカリキュラムが無事に終了いたしました。特に今回のこのコースにおいては、受講生の皆さんに実際に本学まで足を運んでいただき、学生さんとともに学んでいただく

## 「青森県あすなろマスターカレッジ」への協力

「あすなろマスターカレッジ」とは、青森県総合社会教育センターが主催する、社会教育の一環です。



その目的は、「平成20年度あすなろマスターカレッジ記録集」によれば、「高度な学習要求に応えるとともに、社会参加活動を促進するため、大学、博物館等と連携することにより、専門的・実践的な学習機会を提供し、地域において、主体的に活動できる人材を育成することをねらいとして平成16年度から実施」ということです。受講生の課程は2年間で、合計200時間の学習により修了証書の授与となります。既に第1期〜第3期におい

## 「ケースワーク原則」は、ソーシャルワーカーの羅針盤

社会福祉学部 准教授 葛西 久志



私の人生設計の中で、全く想定外だったのが、5年前の大学院への進学であった。大学を27年前に卒業し、その後は精神科病院をはじめ、精神障害者社会復帰施設のソーシャルワーカーとして従事し

## 成績優秀者表彰される

### 社会福祉士・精神保健福祉士養成校協会

この度、2009(平成22)年度の成績優秀者が決まり、三月二十日に表彰状の授与が卒業式後に行われました。

この賞は、学業成績・人物ともに優秀で、社会福祉士・精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対し贈られるものです。

受賞者は次の方々です

■日本社会福祉士養成校協会成績優秀表彰者 山内麻祐子



■日本精神保健福祉士養成校協会成績優秀表彰者 秋元 理那

## 研究紹介

### 古い書物たちとの語り

文学部 准教授 森田 猛

史学史(歴史学の歴史)という少々古風な分野を専攻していることもあって、わたしの研究生活はクラシックなものである。最新鋭の機材を使ったデータ解析や大がかりな実験をするわけではない。古い文献をじっくり読んで、それについてじっくり考える。基本的にはただそれだけである。だからといって、カビの生えたようなつまらないことばかりというわけではない。古い書物たちとの語りには、何となく新鮮な発見が

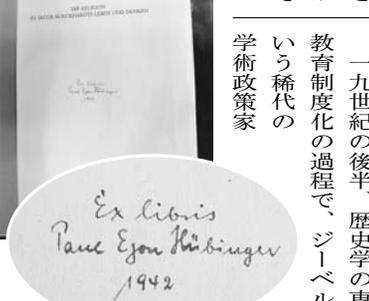
あったし、素敵な出会いもあった。古い書物は独特の字体や美しい装丁をもち、新刊本にはない魅力がある。刻印された蔵書印、書き込みやアンダーラインは、何人かの持ち主の間を渡り歩いてきたその本の「個人的な歴史」を物語るている。一冊一冊が実に個性的な存在なのである。わたしはスイスの文化史家ブルクハルトを中心とした研究を進めていく。彼の著作だけでなく、

大学で講義することは思った以上に大変なことであった。臨床現場の話は十分にできたとしても学問的知識や技術のなさは否めず、不快感の続く毎日が過ぎて行った。そんな折、修士を持つ細君の勧めもあり大学院への進学を決意したのである。

進学後は、仕事とレポート課題の両立にとても苦労した。仕事を終えてからレポート課題に取り組みうと専門書などを読むのだが、数ページも進まないうちに睡魔に襲われ、毎朝後悔の念に苛まれていた。

さて、大学院への進学により、出会った書籍は数知れず、中でもソーシャルワーカーの原点である「ケースワークの原則」やMary E. リッチモンド著「ソーシャル・ケース・ワークの原則」やMary E. リッチモンド著「ソーシャル・ケース・ワークの原則」が活躍した。ボン大学歴史学ゼミナールとは、彼が設置した教育施設である。このジューベルとブルクハルトは、ともに「近代歴史学の父」ランケの弟子であるが、前者がつねに歴史学界の中心に位置していたのに対して、後者はアウトサイダーの立場に終始した。この対照的な両者をつなげた研究は、ブルクハルト研究の中心地ドイツでも、誰もまだ着手していないものであった。

だが、ヒュービンガー氏がかつて所蔵した研究書を前にして、わたしはこの「不思議な縁」に何か背中を押されるような気がしてきたのである。やがて試みた論考は、稚拙なものであったが、その後の研究を方向づけるものとなった。その恩人たる古書は、十数年前にドイツのハンブルクから船出し、日本で待つ新しい持ち主のもとへと向かったわけである。最初の頁に大切なプレゼントをたずさ



えながら。

# 「初めての海外研修」

文学部 英語・英米文学科 四年 市村 未希

私は昨年8月に一カ月ほどアメリカ合衆国のシカゴ近くにあるネイパービルという町に海外研修に行ってきた。私は海外研修に行くことが初めてだったので、行く前までは初めての場所に行くことへの期待と不安でいっぱいでした。

海外研修には私たち日本人の他に、台湾人、カタール人の学生も参加していました。私たちは寮で一緒に過ごすことになり、一カ月のスケジュールもすでに組まれてありました。平日は決まった時間にそれぞれのクラスで授業を受け、授業の後や休日には寮の近くにある町中に買い物に行ったり、シカゴ観光をしたり、動物園に行ったり

分にコミュニケーションをとることができたし、絆を深めることもできた。私の中では、日本に帰る前夜にチューターの女の子とあったことがきっかけで喧嘩をしてしまったことがとても印象に残っています。その日のうちにちゃんと仲直りをしましたが、私たちは喧嘩できるくらい仲良くなっていったのだと思うとすごく良い思い出です。

私は弘前学院大学に入学しようと思った頃から絶対に一度でもいから海外研修に行きたいと思っていました。というのも、私が中学生の頃、海外研修に行くことが決まっていた手前でアメリカのテロ事件と重なってしまい、残念ながら行くことができなかったからです。また、私は決して英語が得意という訳ではないのですが、他の人たちとコミュニケーション

# 学内就職セミナー開催！

文学部・社会福祉学部対象

就職課長 福井 修

去る一月八日(金)、今年度の学内就職セミナーが本学体育館にて開催されました。

学内就職セミナーの開催も今年度で5回目となりすつかり定着した感があります。

セミナーを本学内で開催するにあたっては次のような意義があります。

1. 採用予定のある企業を本学に招くことで、直接、学生と面談してもらえる。
2. 面接や言葉遣いの練習にもなり、コミュニケーションの訓練にも役立つ。
3. 学生にとっては、一度に複数の企業の説明が直接に聞け、

また、業界研究、企業研究にも役立つ。  
4. 企業にとっても、本学の学生を知る良い機会となる。  
5. 加えて、これから始まる就職活動に対するモチベーションの高揚が図られる。

当日は青森県内を中心に38の企業・施設、55名の採用担当者の出席を頂きました。また、学生の参加は、既に就職活動に入っている3年生を中心に、これから就職活動するための準備となる2年生及び4年生(4年生参加可の企業もあり)の計107名と、多数の参加がありました。

をとることができたなら楽しいだろうという思いと、英語を話すことが広がらるだろうという思いがあったので、海外研修に参加することを決めました。ですから、ぜひ皆さんも積極的に海外研修に参加して、皆さんの発見をしてほしいと思います。



にも恵まれました。セミナーは予定通り午後1時、山田文学部長の開会のあいさつに始まり、開始の合図を待ちかねたように学生は一斉に希望の企業のブースを訪問していました。皆、事前に行ったオリエンテーションで指導されたことをよく生かし、熱心に説明を聞き、質問やメモをとるなどしていました。そして予定通り午後4時にはセミナーは無事終了しました。

参加した学生からは、「目指す企業の情報が得られた」「就職を具体的に意識できた」などの前向きな意見が多数寄せられ、また、企業からも「皆、熱心に説明を聞いてくれた」「是非また参加したい」などの意見が寄せられました。

今回のセミナー開催に当たっては前回以上の企業・施設にご案内を差し上げたものの、参加は昨年を下回っています。このことから

# 弓道部

文学部 日本語・日本文学科 四年 中村 圭吾

弓道部は、現在三年生中心で部活をしています。主な活動場所は弘前市宮弓道場で、私たちは月、金の放課後にそこに行き、二時間練習をします。その他に個人の空き時間を使って、道場に行き、練習をしたりします。練習は各々の都合に任せていて、強制はしていません。

弘前市宮弓道場ではコーチが一人一人丁寧に指導してくれました。また、弘前市宮弓道場では弘前市弓道連盟の方々がいますので、一緒に活動させていただいています。ときどき、弘前市弓連の人たちから指導をいただいています。そのため、弘前市弓連の方々にはいろいろとお世話になっていま



ただきました。青森大学さんにはこの場を借りてお礼を申し上げます。この大会を通して、部員たちは大きく成長すると共に、他大学の選手たちと交流を深めることができ、とても充実した大会になりました。

今、弓道部は部員がたりなくて困っています。今回の優勝した大会も部員二人が出て優勝しました。もし、弓道に興味がありましたらぜひ参加してみてください。経験者・未経験者を問わず誰でも大歓迎です！無理なく出来る部活なので気軽に始めてみませんか。

# 卒業生からのメッセージ

大学での経験は必ず活かされる

文学部 日本文学科卒 原 千昌



も、昨今云われている就職氷河期が実感されるものです。今後の就職状況は大変厳しいものがあると予想されますが、学生諸君にはこの経験を生かし就職活動に励んでほしいと思います。

最後に、本セミナー開催のためにご尽力いただいた関係者の方々、また、ご出席頂いた企業の方々にも御礼申し上げます。

大学を卒業して早いもので6年が過ぎようとしています。卒業して一般企業を経て、現在社会教育主事として働いています。

社会教育主事の仕事は、とても地味ですが幅広くハードな仕事も数多くあります。一言で言うとうち校外教育ですが、対象の年齢層が子どもからお年寄りまでと広く、どの世代の人でも気軽に学習できる場を作り、スポーツ・文化・文

# 弘前学院校友会より 母校援助金30万円の寄贈

本校卒業生が入学する弘前学院校友会(工藤幸会長)から、1月22日(金) 母校援助金30万円が吉岡学長へ寄贈されました。



友会母校援助金は毎年年度寄贈され、昨年度は体育館ステージ引き幕、今年度はAED(自動体外式除細動器)の機械を

無料の県内大学の講師派遣制度や県職員の出前講座の講師にお願いして節約しながら何とか開催しています。

学院で社会教育主事の資格を取得し、一般企業へ就職した時は一生この資格は使わずに終わるだろうと思っていました。気がつけばこの仕事をしていました。学生時代に見たり聞いたり学んだ事はいつ役立つかわかりません。在学中の皆さんも同じです。どうか4年間しかない学生生活の中で色々な経験をして下さい。その経験は必ず社会に出たときに役に立ち、それまでの生き方を大きく変えてくれるのです。色々な経験をした皆さんといつか一緒に仕事をできることを楽しみにしています。

